

私の思い出の場所
My memorable place

長崎ゴールデンボウル

波乱の時代に見つけた居場所



才木邦夫さん 教育学部・1973年卒業

私が高校3年の頃、全国で巻き起こっていた学生運動の波はピークを迎えていました。長崎大学前でも警察や機動隊が人だかりを作り、その光景を登校中のバスの中から横目に見た日もありました。

そんな中、本来ならば大学で行われるはずの入学試験は別会場になり、私たち受験生は警察官に警護されながら会場に入りました。合格発表は文教キャンパスまで見に行きましたが、その後の入学式は実施されず、キャンパスでは教養部棟(現、環境科学部棟)を学生の運動家たちがバリケードを築き占拠(2カ月ほどあと、建物の屋上と地上とで、運動家と新入生、一般学生連合軍が石を投げ合うなどの攻防戦の結果、やっと解放された)するなど、波乱の大学生活の始まりでした。

この解放されるまでの2カ月間は講義

もまったくありませんでした。モヤモヤが募る中、私は入部するクラブをバドミントン部と決めていたため、部室を訪ねることにしました。「授業がないなら来た方がいいよ」と先輩たちが温かく迎えてくれ、そこからの私の大学生活はまさに“バドミントン学部バドミントン学科”。毎日のように練習に励み、専門書を読み漁っては相手に想定されない球筋の研究に余念がありませんでした。

トレーニングの一環として通っていたのが、大学近くにあったボウリング場「長崎ゴールデンボウル」です。当時は空前のボウリングブーム。長大生はみんな行っていたかもしれません。土日ともなれば行列ができるほどの人気でした。私は週1回程度、料金が割安な早朝の時間帯に一人で出かけて、たっぷり12ゲーム汗を流した後に大学へ。投げる球は最重量の16ポンド(7.26kg)でした。当時は遊



写真提供:長崎新聞社

びも一生懸命な学生が多かったと思います。いつしかボウリングブームは過ぎ去り、ゴールデンボウルも閉館となり、跡地にはマンションが建設されましたが、そこを通ると、学生生活を思い出します。

また、クラブの仲間たちとよく出かけた店が「グリルOK」です。コーヒー1杯で2時間、3時間粘っても追い出されない居心地の良い店でした。

当時、志を持って入学した学生の中には、入学式や講義が行われない状況に、虚しさを感じた人もいたかもしれません。私は幸いなことに、バドミントンというやりがいが見つかり、そして居場所を見つけることができました。50歳まで続けたバドミントンから今はゴルフへ。年齢を重ね、また新たな楽しみの方が見つかっています。

読者プレゼント



長大珈琲館
スペシャルブレンド(粉)
5人

長崎大学オリジナルコーヒー。全4種のうち、今回はスペシャルブレンドをご用意しました。ぜひご堪能ください。長崎大学生協売店で販売中です。



卒業記念文鎮
3人

以前は卒業の記念品として配られていた文鎮。そこに刻まれているのは、ラテン語で「高きより高きへ」を意味する「AB ALTO AD ALTUM」。非売品。



磨き大島
波佐見焼グラスセット
1人

長崎県産さつま芋と清らかな「西海の水」を使った本格芋焼酎と、長崎大学のロゴマークが入った波佐見焼グラスのセット。長崎大学生協売店で販売中です。

79号のクイズ

Q 長崎大学の広報誌「Choho」が創刊したのは何年でしょうか。
答え/②2002年

アンケートのご案内

広報誌Chohoへのご意見・ご感想をお寄せください。プレゼントのご応募も以下より承ります。①面白かった記事②本紙に対する意見・感想③今後取り扱ってほしい内容④長崎大学からの情報発信全般についてのご意見・ご感想⑤職業⑥年齢⑦ご希望のプレゼント⑧氏名(ふりがな)⑨郵便番号⑩住所⑪電話番号を明記してください。



- ◎ ハガキ
〒851-8521 長崎市文教町1-14
長崎大学広報戦略本部 宛
- ◎ FAX 095-819-2156
- ◎ メール
kouhou@ml.nagasaki-u.ac.jp
- ◎ または上のコードから
- ◎ 応募締切日/2023年2月末
当選者の発表は発送をもって
代えさせていただきます

編集後記

Vol.80を迎えた長崎大学広報誌Chohoは、今号より新たな形態に形を変えました。これまでは冊子の形で主に高校生、受験生を対象に編集を行ってまいりましたが、彼らをターゲットにした情報発信はホームページ等インターネットに集約していきます。そして、今号より、Chohoのメインターゲットを長崎大学同窓生とし、加えて長崎に住む市民、県民の皆さまにも楽しんでいただける内容とするを旨とします。形態も新聞感覚で手軽に読んでいただけるよう、タブロイド判を採用しました。当面、発行は年に2回とし、約1万5,000部/号の部数を予定しています。

大学の発展は、現役の教職員、学生の努力だけでなく、多くの同窓生と地元の皆さまの関心を獲得し、サポーターになっていただけてこそ、成し得るものです。Choho創刊時の「大学と地域の垣根を取り払う」というコンセプトを改めて編集方針の根幹に置き、長崎大学の思いや姿、描く未来などを、皆さまと共有していただける広報紙へと育てていきたいと思っております。

(河野 茂)

長崎大学のウクライナ支援特設ページ



今回の特集では、長崎大学とウクライナの歴史に触れながら、現在のウクライナ避難民学生への支援についてお伝えしてきました。長崎大学はこれからも、ウクライナの学生の皆さんが学びを続けられるよう支援を続けていきます。この特設ページでは、本紙ではお伝えできなかった情報や、学びの様子をご紹介します。最新情報をお届けしますので、ぜひご覧ください。

<https://www.nagasaki-u.ac.jp/ja/pickup/ukraine/index.html>

長崎大学SNSサイト



Facebook



Twitter



Instagram

